

平成16年7月1日

周南市長 河村和登様

徳山地区地域審議会

会長 小田敏雄

周南市まちづくり総合計画基本構想(案)について(答申)

平成16年4月30日付け周企第41号で諮問のあった「周南市まちづくり総合計画基本構想(案)」について、別紙のとおり答申します。

## 答 申

### 【序 論】

#### 第2章 総合計画の名称、目標年度及び構成

名称については、各委員より様々な意見が出され、本審議会として一つに絞ることは困難であるが、“しゅうなん”という言葉については“周南”と漢字での記述を望む意見が多かったことから、名称に市の名前を入れるのであれば、漢字で“周南”とするよう要望する。また、各委員より出された名称案を次のとおり、紹介するので参考にさせていただきたい。

- ・ひとまち輝きプラン
- ・オンリーワン周南
- ・われら周南人 - わたしたちの周南プロジェクト
- ・ひとまち燦燦
- ・周南 キラリ輝きプラン
- ・ひと まち 輝く周南
- ・ナイスプラン・周南

### 【基本構想】

#### 第1章 計画策定の背景

#### 3 周南市の課題

##### (4) 産業の振興（既存産業の振興と新規産業の育成）

中山間地の農林業についても、担い手不足や農地保全などの様々な課題を抱えているのが現状であり、農林業の振興についても周南市の課題の一つとして記述していただきたい。

#### 第2章 将来の都市像

### 基本理念

#### 【生活者である市民の視点にたったまちづくりの推進】

“生活者である市民”という表現は一般的でない。“生活者である”を削除するか、“生活者の視点にたった”という表現にさせていただきたい。本文中の表現についても同様に変更していただきたい。

## 【一体感のあるまちづくりの推進と各地域の自立的な発展を促すまちづくりの推進】

「一体感のあるまちづくり」と「各地域の自立的な発展」は、施策の考え方として矛盾しているように捉えられる。従って、“自立的な発展”を“あらたな発展”としていただきたい。また、本文中、6・7行目についても同様に変更していただきたい。

### 将来の都市像

この基本構想の柱はあくまでも「ひと」であり、市民が主役という観点から作成されていることは十分理解できるが、表現として伝わってこないため、“ひとが”を“私たちが”とし、主語が自分となり自分のこととして捉えられるよう、身近な表現にしていきたい。

「私たちが輝く元気発信都市 周南」

## 第3章 まちづくりの目標

### <構成について>

「第3章 まちづくりの目標」と「第7章 施策の大綱」について、基本となる5つの柱は同じであるが、両者が分かれて記述されており、体系的にみてわかりにくい構成となっていることから、構成上、目標と大綱をいっしょにまとめていただきたい。

### <目標名について>

前文に“周南市では将来の都市像に掲げる「ひとが輝く元気発信都市 しゅうなん」の建設に向けて”と記述してあることから、各目標それぞれに“(ひとが)”と入れる必要がなく、削除していただきたい。

## 第6章 主要プロジェクト(まちづくりにおける特定課題)

### 主要プロジェクト『21のリーディングプロジェクト』

主要プロジェクトの構成上、「ひと」を主要テーマとした「ひと輝きプロジェクト」に加え、新市建設計画の21のリーディングプロジェクトの具体的事業が掲げられているが、基本構想はあくまでもまちづくりの基本理念、方向性を示すものであり、新市建設計画については、その推進の考え方が述べられればよいと思われるので、第8章の推進方策に入れていただきたい。

## 第7章 施策の大綱

### <構成について>

第3章まちづくりの目標と一っしょにし、わかりやすい体系にしていきたい。

#### 1 (ひとが)心豊かに暮らせるまちづくり

##### (4)文化の育成と継承

原案	さらに、本市には、各地区に <u>無形の</u> 伝統ある文化や芸能、祭りなどが多く残されています。
修正	さらに、本市には、各地区に <u>有形無形の歴史的資料</u> や伝統ある文化や芸能、祭りなどが多く残されています。

(理由)周南市には、無形文化財のみならず、多くの有形無形の文化財や歴史的な資料が残されている。

#### 2 (ひとが)快適に暮らせるまちづくり

##### (4)国際化への対応

国際化への対応が、施策の大綱の中で「(ひとが)快適に暮らせるまちづくり」に位置付けられているが、この分野は都市基盤の整備や環境が中心となった施策が主であり、「(ひとが)心豊かに暮らせるまちづくり」の中に位置付けるのが適切である。

#### 3 (ひとが)安心して生活できるまちづくり

##### (1)福祉の充実

ユニバーサルデザインについては、財政面の関係でハード面ではむずかしいということではあるが、ここに「ユニバーサルデザインの推進」に関する記述をしていただきたい。

### 【全体】

#### 表現について

第2章の将来の都市像において、“ひとが”という表現を“私たちが”という表現にする答申をしているが、この基本構想全体の表現において、“ひとが”“市民が”という表現で、私たち市民が主役であるという観点から記述される部分に

については、可能な限り、市民が自分のことと捉えられるよう“私たちが”という表現にさせていただくよう要望する。

#### 新しい地域概念の導入について

合併後1年を経過した現段階において、徳山地域・新南陽地域・熊毛地域・鹿野地域という旧2市2町の呼称が多くの場面で残っているのは、ある意味いたしかたないことではあるが、地域エゴをなくしていくためにも、今後、この旧名称による呼称をなくしていくことが重要である。

『地域』というものは、わたしたち市民が日々暮らしていく上で非常に大切な単位・くくりであり、それぞれの地域で育まれてきたコミュニティや文化・伝統などをなくして、旧市町の地域を継続させることはできないが、今後、周南市が一体感のあるまちづくりを進めていく上で、これまでの旧市町の地域を継続していくのではなく、新しい地域概念の導入が必要ではないかと考える。そして、新しい地域の概念が生活圏に根ざしたものとなり、市民に浸透していくなかで、周南市の一体感の醸成がなされていくものであり、その実現に向けて、基本構想を進められるよう強く要望する。

また、この考え方を基本構想(第2章将来の都市像 **基本理念** 【一体感のあるまちづくりの推進と各地域の自立的な発展を促すまちづくりの推進】)において反映していただきたい。